画像作成：松原市教育委員会

書　　名	善正寺の古文書と聖教・典籍
書名かな	ぜんしょうじのこもんじょとしょうぎょう・てんせき
副署名	令和 5 年度春季歴史講座「善正寺の歴史と寺宝」当日配布資料
編著者名	服部 光真(はっとり みつまさ)
編集機関	–
発行機関	松原市教育委員会 ｜ 一般財団法人松原市文化情報振興事業団
発行年月日	2024 年 3 月 9 日
郵便番号	580-8501 ｜ 580-0016
電話番号	072-334-1550 ｜ 072-336-6800
住　　所	大阪府松原市阿保 1-1-1 ｜ 大阪府松原市上田 7-11-19
備　　考	松原市民ふるさとぴあプラザで令和 6 年(2024)3 月 9 日に実施した「令和 5 年度春季歴史講座」の配布資料である。 本講座は松原市教育委員会と一般財団法人松原市文化情報振興事業団が共同で開催したものである。

PDF ファイル制作日：2024 年 3 月 13 日

令和５年度春季歴史講座「善正寺の歴史と寺宝」

善正寺の古文書と聖教・典籍

服部光真（元興寺文化財研究所）

はじめに

・これまで知られていた善正寺の古文書

教如書状が紹介された*ほか、ほとんど知られていない。

*西田孝司「善正寺蔵の教如ゆかりの品々」（『松原歴史ウォーク』191）

由緒は明治 31 年（1898）編纂の寺誌『長谷山古今言行録』に基づき説明される。

その他は、松原市史編さん室が 346 点の古文書を調査し目録化していたが、未紹介。

・今回の総合調査の成果

昭和期の第２次世界大戦終戦までの資料を対象とする悉皆（しっかい）調査。

⇒教如などの古い時代に限らず、残された資料の全体を調査し、記録する。

古文書…1,095 点（江戸時代 603 点、明治時代以降 492 点）

聖教・典籍…647 点（江戸時代 230 点、明治時代以降 417 点）

⇒一大資料群の出現。

お寺の歴史のみならず、地域の歴史を伝える重要史料として再評価。

１、善正寺の由緒と歴史

・『長谷山古今言行録』が語る善正寺の歴史

善正寺は、もともと摂津国**平野郷**にあった金剛乗院という真言宗寺院で、根来寺に属していた。蓮如が当国に巡錫した際に、三好順慶の子了道が蓮如に帰依し、この寺を河内国丹北郡**城蓮寺村**に移し、寺号を浄蓮寺と改めた。

その後、文禄３年（1594）には長束正家を奉行とする太閤検地で城蓮寺、砂村、我堂村の除地が認められ、元和２年（1616）にはこの除地の一つ**砂村**に移され、「砂御坊」と称された。この間、慶長年間（1596～1615）に住持順欽が教如の巡錫の際に帰依し、教如から寺号を与えられて善正寺と名乗っていたという。**我堂村**の現在地に善正寺が移されたのは寛永 18 年（1641）のことであったという。

・草創期に関わる伝承はどこまで遡るか

宝永４年（1707）木鐸化牒叙

つつしみて河州丹北郡我堂善正寺の権輿をかんがうるに曰く、往昔摂津州**平野県**に一区仏盧あり、金剛乗院と名づく（根来に属す）。専ら真言密乗を唱うるの宗派なり。しかるにその頃わが宗　大上人信楽院蓮如、畿内を巡化したまう。その時の僧**順可**、浄土真宗の教風に靡き、改宗して真宗に帰し、**浄蓮寺**と号す。則ち

<u>法祖鸞聖人御真翰十字名号</u>を譲り与え、念仏沛渤の道場と成すなり。後に故ありて河

内丹北郡**天見郷**に移り、**砂**御堂と号して寒暑一百有余年を送る。慶長初年　前大僧正教如上人また畿邦を遊導し、芳躅をわが寺に休めたまうこと三十余日なり。則ち当寺を　御坊の列に任ぜしめ、賞褒として　先住大僧正顕如上人真影・御累世善智識御名ならびに御書一通御染筆を授与す。また善正寺に号を改む。その後また故あり、寺宇を今の**我堂**に移してよりこのかた既に八十有余歳なり。（後略）

→近世段階から、親鸞の十字名号、顕如上人像、本願寺歴代連坐銘、教如書状などの什宝を由緒に組み込み、寺の由緒を主張することで、建造物や什物の修造のための勧募などが行われていた。

⇒平野郷→城蓮寺→天美郷（砂村）→我堂という変遷の骨格は 18 世紀初頭までに成立。『長谷山古今言行録』は近代の編纂物とはいえ、江戸時代までに形成されていた善正寺の由緒＝歴史叙述の伝統を踏まえて作成された。

・草創期善正寺の実像

一次史料によって善正寺の確立過程を探ると以下の通りである。

・文禄 2 年（1593）顕如上人像下付。「天見郷**城蓮寺村**興正寺門徒端坊下／願主釈順欽」（同裏書）。＊善正寺の寺号は無し。

・慶長 5 年（1600）親鸞聖人像下付。「天見郷**成蓮寺村善正寺**」「願主釈順欽」（同裏書）。

・寛永 7 年（1630）御伝鈔免許。「**スナ／善正寺**／孝順」（御印書）.

・寛永 13 年（1636）飛檐出仕免許。「天見郡**砂村／善正寺**／孝順」（御印書）。

・寛永 13 年（1636）聖徳太子・七高僧図下付。「天見郷**砂村善正寺**」「願主釈敬順」（同裏書）。

・寛永 15 年（1638）宗門改帳に「**我堂村善正寺**」（正徳元年「乍恐口上書を以奉願上候」）。

・寛文 12 年（1672）孝順の後住に放逸僧が入り、逐電（寛文 12 年「乍恐言上」）。飛檐継目出仕免許。「**我堂村善正寺**／了順」（御印書）。

・この頃　門跡への白銀進上につき、西我堂村、東我堂村、城蓮寺村、油上村、砂村、善正寺の門徒中に謝意が伝えられる（御印書）。

・延宝 5 年（1677）油上村に末寺施福寺が建立される（同年「御添状之写」）。

・延宝 7 年（1679）砂村に安楽寺が建立される（同年「木仏并寺号御免状御之写」）。

・元禄 7 年（1694）飛檐継目出仕免許。**我堂村善正寺**／教雅（御印書）。

・元禄 15 年（1702）**善正寺**南窓坊が 5 か村の門徒中に本堂修復の助成を請う（道場修造につき助成要請状〕。

・宝永元年（一七〇四）　檐継目出仕免許。我堂村／**善正寺**了空（御印書）。

⇒一次史料の表記を見る限り城蓮寺村→砂村→我堂村の変遷は跡付けられる。
ただし寛永 15 年（1638）までには我堂の現在地に移っていたとみられ、一部修正される。
→基本資料である『長谷山古今言行録』を一次史料により相対化していくことも必要。
江戸時代前期には我堂、油上、城蓮寺、砂など天美の中心寺院。「中山」（中本山格）寺院。
寛文 12 年（1672）の放逸僧の入寺で寺史が断絶。17 世紀末以降の史料が残される結果に。

２、善正寺文書の魅力

お寺の歴史が詳しく判明するだけではなく、地域の歴史を伝える重要な史料。

・乍恐以書付御断申上候（地震につき本堂・庫裏・長屋門破損届）

乍恐以書付御断申上候

一小出民部殿御知行所河州丹北郡我堂村善正寺本堂并庫裏・長屋門迄、当月四日之地震ニ而破損仕候ニ付、書付差上申候、

一本堂　梁行七間　桁行七間　但瓦葺

外ニ壱間　弐間御拝附

右者西之方江六尺計ゆかミ候ニ付、瓦取引立置申度候、

一庫裏　梁行三間　桁行六間半　但瓦葺

外ニ壱間半　拾壱間瓦庇肩

一長屋門　梁行壱間半　桁行四間　但瓦葺

右弐ケ所同断

右之通相違無御座候、以上

東本願寺下我堂村

宝永四年亥十月十二日　長谷山　善正寺

同村庄屋　甚　助

同村庄屋　作左衛門

同村年寄　文左衛門

同村年寄　伝右衛門

御奉行様

⇒宝永大地震（南海トラフ地震）に被害状況を報告。

この地域における地震被害の状況を伝える貴重な地震史料。

防災のための歴史地震研究にとっての貴重なデータに。

・過去牒に記された年代記

住職智空によって、嘉永 2 年（1849）～明治 25 年（1892）の間、毎年の年末に、その年に起きた善正寺内外の事件、世相が記録された。

（嘉永五年・1852）

当四月十日、北条相模守死去、号顕光院、五月ヨリ旱リ、七月二十一日大風雨、当村家十五軒程倒レ、希大風也、九月九日、北条悦治良御巡見之処延引ニ相也、〇北条相模守御逝

去ニ付、五月廿四日ゟ七月十五日迄御停止、穏便五十日之間也、此時山上猪右衛門寺社奉行ニ付、鐘・太皷勤行付之鳴物之儀相尋候処、鐘・太皷等朝夕勤行付ハ不苦敷例年定式勤事、法話も当住之法話ハ不苦敷、余人を頼法話、又何時ニ而も宜敷勤事を御停止中被致事相成不申候と山上被申候、

（嘉永六年・1853）

当三月二十八日、北条悦治良御巡見、当寺御中飯、七月中旬西ノ方ニホフキ星出、秋東都〈西墨利(アメリカ)伽船来リ、大名衆并ニ世間大ニサワカシキ、夏大旱、五月十八日ニ雨フリ夫ヨリ冬ニ至ルマテ田地水ナシ、古今希ナル旱也、夏将軍遷化、金六十七両九分也、〇十二月二十日夜、本堂〈盗賊入リ仏具十三品盗取公儀〈届、狭山〈届申候、〇公方様御薨去ニ付、七月廿七日ゟ穏便之廻状来リ、御当職致無限、朝夕勤行ニ付鐘・太皷ハ常之通リ相用候事、

上＝〇下　ホヲキ星ノ形如上長二尺程、

（嘉永七年／安政元年・1854）

当三月天子焼失、六月二十七日ノ夜賊難、鑿一ツ・小香炉一ツ盗レ、公儀不届、六月十四日ノ夜七ツ時大地震、同十五日朝六ツ半時中地震、夫ヨリ日々少々宛地震閏七月マテ、九月十八日ヲロシヤ船堺浦エ来リ、近辺大名衆浜辺エ出陳、十月三日、ヲロシヤ船退船致シ、十一月四日朝五ツ時大地震、同五日昼七ツ半時、亦夜五ツ時大地震、此時本堂致破損、津波ニテ大坂町人凡六百人余溺死、十一月二十七日安政ト改元、諸国大豊年、

（安政 2 年(1855)3 月 17 日条）

芝村安楽寺、阿保村ニ而即死致シ、三月ゟ疱瘡大ニ流行、

（慶応 2 年(1866)8 月 7 日条）

大風ニテ民家大木大ニ倒当村五軒家倒、米・綿大ニ不作、米大高直一石ニ付壱匁四百九十目、綿一斤二十三匁、金壱両百四十五匁、

（同年 5 月条）

大坂御城堀ニテ怪魚死浮フ、形鱶ノ如クシテ四足アリ鱗アリ口ハ尖ノ口ノ如シ、コレ城ノ主ト相見エ、コレ此城滅ス前表ナルヘシ

⇒地域における地震・疫病・大風などの被害状況、異国船来航と「ほうき星」出現という世相、物価、怪異・噂など。時代の変革期を生きた住職によるほぼリアルタイムの記録。

おわりに

他にも、前ケ池埋め立て以前の様子が写された古写真、江戸時代の住職の書写による浄土真宗の聖教類、その他の仏教書、戦前の住職所持の生け花・茶道などの書籍、教科書など。

⇒善正寺の古文書と聖教典籍は、地域の歴史文化の重要なアーカイブ。地域史料の一大文庫。

⇒今年度末刊行の報告書ではすべてを目録化し、主要資料 145 点を翻刻。

この成果が、地域史研究、地域文化の継承・創造に活用されることが期待される。